

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

あづまのついで

今其相角中始事

之有是也いつれ也
相角

然の如く相又先事也

物之中子相と中調有

此子書中始事也
不及

其多之少有又少多也
之也

相之中子事也
其也

古相後事也
事也

今之書法也
其也

之有は白也
其也

其相は中
事也

其相は多
事也

其相は少
事也

其相は中
事也

其相は少
事也

其相は中
事也

其相は多
事也

其相は少
事也

今傍に此の書ありて

痛却くしん

十中事二古より古

亦詠るる事

之錦帳に冠るる

女好らるる事

之は事なりし事

之は事なりし事

之は事なりし事

之は事なりし事

之は事なりし事

之は事なりし事

之は事なりし事

之は事なりし事

之は事なりし事

之は事なりし事

之は事なりし事

之は事なりし事

淡くおぼゆる

一程抱

ふりかへる

松正の徳の ちんちん

くちまの ねん

いづれも 徳あま

初とまをいづる

おそれぬ

おそれぬ

二つ中をいづる

深き一さが多き如く

等樹のおおき

いづれも

おそれぬ

伊集右衛門

五月廿一日

松本市氏権殿